

備蓄米放出の影響注視 高値買い打診の動きが萎む

全米工西日本ブロック情報交換会

全国米穀工業(協)は先ごろ、名古屋市内で6月の西日本ブロック情報交換会・席上取引会を開き、コメ需給情勢や市中相場の動向、政府備蓄米放出の影響、7年産米の見通しなどで意見を交換した。今回もズームを活用したオンラインで開かれ、全国各地の組合員が参加している。

冒頭のあいさつで大嶋衛理事長（茨城・関東穀粉（株）社長）は、主食用米に傾いていた生産者意識の変化に注意を喚起。「備蓄米 81万㌧が売り渡され、7年産の価格にも影響を与えるだろう。3～4年産は確かに安いが、臭いなど品質面で消費者に受け入れられるのか。随意契約の備蓄米がマーケットに浸透するか、注視していく必要がある」と語った。

また外国産米の輸入拡大に伴う需給動向の変化に言及。「来年6月末の民間在庫を占うのは早いが、250万㌧を大きく超えるとの見方もある。随意契約がスタートしてから市中相場が1万5000円前後も下がった。ケガのない経営を心がけてほしい」と組合員に注意を促した。

情報交換会の組合員報告は要旨次の通り。

▷北海道＝田植作業、生育ペースとも平年並み。備蓄米の委託搗精は数件のオファーがあって対応しているが、自社ブレンド米の売れ行きに大きなダメージはない。随意契約の備蓄米が本格的に出回れば、影響があるのかもしれない。

▷茨城 A＝田植えが終わり、おおむね順調。気になるのは空梅雨で、今後の生育にどう影響するか。生産者聞くと、一時は7年産米の買い取りで多くの業者から声がかかったが、随意契約の備蓄米販売が始まると一斉に姿を消したという。5% 2000円の備蓄米を見る機会はないが、本格的に店頭に並べば何かしらの影響はあるだろう。

▷茨城 B＝生産者は当初、7年産で4万円前後の手取りを期待していたが、随意契約の備蓄米が始まつてモチベーションが下がってしまった。ただし道の駅では5% 5000円前後の銘柄米が売れているようで、おいしいコメが食べたい需要は根強い。

▷長野＝5年産備蓄米は胴割れを懸念していたが、現物を確認したところとに問題はなかった。随意契約の備蓄米が本格的に出回れば5% 2000円で店頭に並ぶので、高い在庫を抱えたと思っていい。7年産は加工用米の作付けが減っているが、備蓄米放出で主食用米の相場が下落しており、特定米穀も仕入価格のバランスが問題になるだろう。

▷愛知 A=6 年産特定米穀は主食用並みの高値で勝負にならなかったが、7 年産が \pm 200 円前後で始まれば、加工メーカーも選択肢のひとつとして考えてくれるだろう。それでも MA 米より高いが、メーカーに対して提案がしやすい。

▷愛知 B=随意契約の備蓄米を社内で試食した。炊き上がりに問題はないが、やや古米臭はある。一般家庭ならクレームは出ず、消費されていくだろう。随意契約の備蓄米販売はまだわずかで、量販店で 5 \pm 4000 円台で販売している銘柄米の受注は落ちていない。ただし高値で仕入れた原料を在庫しており、早く消化したいというのが本音だ。

酒米の数量確保にメド

▷滋賀 = 7 年産は植え付けてから寒い日が続いたため、収量が落ちるかもしれない。備蓄米の影響で市中相場が下がり、生産者が落胆していると思っていたが、そんな感じでもなかった。高値で始まるのではないか。

▷岡山 = 備蓄米の糠を入荷したが、4 年産は臭いが気になる。7 年産酒造好適米は当初、数量的に厳しいと思われていたが、県内や広島の生産者からは前年並みの数量が手当てできそうだ。生産現場には九州などから数多くの業者が入っているため、主食用は県外に流れるかもしれない。

▷熊本 = 主食用うるち米相場が高く、もち米から転換する生産者が多いと聞く。もち米の作付けが全国的に減少すれば、先に出回る関東産もち米の出回りが減った段階で相場が高騰するケースもありそう。ただし九州に限れば、もち米作付けが大幅に減ることはない。